

六 山東三閥スル日中直接交渉

六三四

算スルコトトナリ居レルハ既ニ御承知ノ通ナル處本件撤兵
カ本來山東一般善後処分ノ解決トハ全然別箇ノ問題トシテ
考慮セラ（脱）ハ夙ニ廟議御決定相成リ現ニ從來支那政府
ニ対スル再三ノ申入レニ際シテモ總テ右ノ方針ヲ以テ声言
セラレ居ル次第ニ付撤兵ノ実行ニ付テ差支無カルヘシトハ
思考スルモ今次条約ニ於テ既ニ其ノ時期ヲ明定セル以上速
ニ之カ實行ノ措置ヲ進メラレ度ク要スルニ本件撤兵ハ新条
約実施ニ關スル我力誠意ヲ表明スルノ先駆トシテ遲滯無カ
ラムコトヲ切望セサルヲ得ス其ノ辺素ヨリ申ス迄モ無キ次
第ナカラ心付ノ儘為念申進ス

在歐州各大使ヘ転電セリ

157 11年2月12日（着） ワシントン會議全權ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中国全權ノ對日態度好転ノ件

會議第六六〇号

華府會議ノ末段頃ヨリ當地支那全權ハ漸ク日本ノ公正ナル

政策及其ノ列國間ニ於ケル勢力ヲ感知スルニ至レルモノノ
如ク本使等ニ対スル態度モ著シク懇懃ヲ加ヘ殊ニ山東問題
解決後ハ會議前ニ比シテ当地支那人ノ対日感情全ク一変シ
タルノ感アリ支那全權中最モ眞面目ナル王寵惠ノ如キハ山
東問題ノ解決ヲ以テ從來日支兩國間ニ蟠マリタル惡感情ヲ
一掃スヘキ絶好ノ機会ナリト認メ帰途上海ヨリ北京ニ到ル
迄隨處ニ啓發運動ヲ試ムル心算ナル旨ヲ本使等ニ語リ英米
人側ニ於テモ日支關係ノ改善ヲ顯著ナル事實トシテ本使等
ニ祝福ヲ寄スル者多シ

將又王寵惠及其ノ一行ハ二月十八日「シヤトル」出帆ノ
Pine Tree State ニテ上海ニ向フ筈ナルガ該船ノ横浜著
(三月一日頃) ト神戸発トノ期間ヲ利用シテ四五日間東京
其他各所漫遊ノ予定ナル趣ニ付右本邦滯在中相當ノ優遇及
便宜ヲ与ヘラル様致シタシ

事項七 會議ノ終了

1 11年2月6日（発） 内田外務大臣ヨリ
ワシントン會議全權宛（電報）

全權ニ対スル政府ノ謝意伝達ノ件

會議第三九六号

華府會議ニ於テ海軍制限、四國協約、山東問題、極東諸問
題ニ關スル條約文又ハ決議等個々ニ議了セラレ我對外的關係ヲ良好ニシ其地位ヲ向上シ軍備制限ノ歩ヲ進メタルノミナラズ世界平和ノ維持ニ多大ノ貢獻ヲナスコトヲ得タルハ
御同慶ノ至ニ堪エズ政府ハ我全權各位ガ此間ニ處シ困難ナル折衝ニ當リ堅忍努力克ク其ノ重任ヲ遂行セラレタルヲ多
トシ茲ニ深厚ナル感謝ノ意ヲ表ス尚隨員一同ニ於テ全權各位ヲ輔佐シ精励其ノ職責ヲ尽シタルニ對シ併セテ政府深厚
ノ謝意ヲ伝達セラレタシ

徳川全權ヘハ本電写ヲ送付シ政府ノ同公ニ対スル謝意ヲ伝
達セリ

2 11年2月8日（着） ワシントン會議全權ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

七 會議ノ終了

六三五

業ハ將ニ人類向上ノ新紀元ヲ画スルコト疑ラ容レズ蓋シ提起セラレタル問題ニ対シ最モ直接ニ利害ヲ感ズル世界九個ノ大國此處ニ会シ世界輿論批判ノ前ニ各々其ノ主権ヲ害ハズ国民性ヲ捨テズ個人ノ誇ラ傷ケズシテ全会一致ノ解決ニ達シタレバナリ新タル保障ヲ渴欲スル世界ハ必ズヤ本會議ノ提供スル共援ニ於テ満足ヲ得ン多數決ハ必ズヤ何レカノ國民ノ權利ヲ害スルモノナル處今次會議ニ於テハ指揮命令スル勝利者ナク屈服セザル可カラザル被征服者モナク凡テ人類(不明)ノ良心ヲ翻訳シ世界輿論ヲ具体的ニ表明スルニ當リ自發的ニ一致シ其ノ声価ヲ世界ニ向ツテ宣明セリ元ヨリ平和ヲ求メ戦争ノ跡ヲ絶タントスル企ハ今回ヲ以テ嚆矢トスルニ非ズ然レ共海牙協定ハ協戮ヲ欲セザル一強国ノ反対ニヨリテ破レ維納及伯林會議ハ徒フニ将来争闘ノ種子ヲ蒔キタルノミ今次會議ハ戦争ノ残害ヲ忘レタルモ尚其ノ嫌惡ス可キヲ認ムル時期ニ於テ開カレタルハ誠ニ幸ニシテ而モ諸君ノ収メタル効果ハ何等紛争ノ種ヲ播クコトナク而テ世界戦争ノ悲痛殘虐ヨリ恢復スルノ確実ナル道ハ軍備ノ競争ヲ中止シ人類ノ努力ヲ平和ノ建設ニ傾注スルニ在ルヲ世界ニ宣言シタリ九十日以前諸君ノ相会セル時ニハ何等約

定モ義務モ無カリシニ世界良心ノ叫ニ応ヘ輿論ノ命スル所ニ從ヒ陰謀ニ依ラス攻勢若クハ防禦ノ同盟ニ依ラス相互ノ諒解ニ基キ政府並ニ國民間ニ新ナル關係(脱)立シ人類渴望可キカヲ示シタリ會議当初余ハ米國ハ斷シテ他人ノ所有物ヲ求メス又何者ヲモ恐レサルコト但シ如何ナル國民モ單獨ニハ遂行シ得サル此崇高ナル事業ニ參加セムコトニ在ル旨ヲ述ヘタルカ今ヤ會議ノ成功ヲ喜ブモノナリ「ネーベル、ホリーデー」ハ條約ノ下ニ完了スヘキモ茲ニ本會議力全会一致平和ノ規模ヲ画シタル以上今後同様ノ會議ハ人類活動ノ公道ヲ照スナルヘク茲ニ再ヒ各國ノ協力ヲ謝スルト共ニ祝意ヲ表ス

右ニ次キ「アバーネシイ」博士ノ祈禱アリ午前十一時半「ヒューズ」閉会ヲ宣シタリ

在歐州各大使ヘ転電シ蘭、西ヘ郵報セリ

3 11年2月8日(着) 在ワシントン田中陸軍少将ヨリ
山梨陸軍大臣宛(電報)

ワシントン會議ノ結果ニツキ観察概要報告ノ

件

華陸甲第六六号

華盛頓會議モ愈々本四日ヲ以テ終了ヲ告ケタレハ茲ニ本會議ノ結果ニツキ差当リ小官ノ念頭ニ浮ヒタル觀察ノ概要ヲ報告ス

一、米國ノ立場ヨリ

海軍競争ヲ中止シテ大戰以来非常ノ膨張ヲ來シタル軍事費ノ負担ヲ輕減スルヲ要スルハ國內ノ經濟状態ト國民一般ノ輿論トニ鑑ミ早晚実行セサル可カラサル問題ナリキ米國カ今次ノ會議ニ於テ日英両國ニ対シ有利ノ關係ヲ以テ海軍制限問題ヲ解決シ得タルハ對内政策上ヨリ云フモ

國際的地位ヨリ云フモ一大成功ト謂ハサル可カラス米國カ從来蛇蝎視シタル日英同盟ヲ廢棄シ得タルモ又素ヨリ大成功ナリ

極東問題ニ就テハ米國トシテ今直チニ特別ニ利益ヲ獲得シタルカ如キコト無シト雖モ一般原則及具体問題ニ關スル各種ノ決議ハ之ヲ一面ヨリ見レバ将来列國ノ對支活動ヲ脅制シテ自ラ經濟的事業指導ノ霸者タラムトスル用意ノ窺フヘキモノナシトセス

リ紛糾セシメ九個ノ功ヲ一竇ニ欠クノ虞アルヲ看取シタ

ルカ為止ムヲ得ス単簡ニ片付ケタルモノト見ルヲ至當ト

ス可ク從ツテ本問題ハ将来尚何等カノ形式ヲ以テ提唱セ

ラルコトアル可キヲ予期スルヲ要ス

之ヲ要スルニ本會議ノ結果ハ概シテ米國民一般ノ満足ヲ

買ヒタルコト明白ニシテ議會ニ於テモ殆ント異論ナカル

可シト思ハル

二、英國ノ立場ヨリ

海軍競争ノ主旨ハ戰後財政ノ苦境ヲ切り抜ケル為メ米國

同様必須ノ要件ナリキ

今次ノ海軍制限協定ハ概シテ如上ノ希望ヲ満足セシメタ

リト云フヲ得ヘシ

米國ノ建議セル日英同盟ヲ廢シテ米國ノ好感ヲ買ヒ同時

ニ四國條約ノ訂結ニ依リテ濠州「ニュージランド」等

ノ屬領ヲ防禦スルヲ得タルハ英國ノ最大成功ナリ

潛水艦問題ハ英國トシテハ満足ナル解決ニ達セサリシモ
其ノ商船ニ対スル無警告爆沈禁止ヲ協定シタルハ島國ト
シテノ英國ノ一成功ナリト云フ可シ而シテ英國ハ潛水艦
全廢案ヲ拠棄シタルニ非ス今後機會ヲ得テ更ニ之ヲ提唱

三、仏國ノ立場ヨリ

仏國ハ非常ニ強硬ナル態度ヲ以テ陸軍制限案ヲ葬リ更ニ

海軍ノ大拡張ヲ主張シテ補助艦建造無制限ノ機会ヲ贏チ

得タリト雖之カ為メ甚シク米国人ノ反感ヲ買ヒ且潛水艦

問題ニ關シ英國ト感情離隔ヲ來シタルハ仏國トシテ看過

ス可カラサル事項ナリ

四、伊國ハ唯米國ニ追従スルニ汲々タリシ外別ニ論評ス可

キコトナシ

五、支那ノ立場ヨリ

支那ハ此期ニ於テ利益シタル所少カラス就中關稅々率引
上ケノ如キノ程度ノ仮令希望ノ点ニ達セサリシニセヨ
現下ノ支那財政上ニ於テハ實ニ貴重ナル利得ト言ハサル

ヘカラス其ノ他青島及威海衛ノ還付外国郵便局ノ撤退ノ
如キ國家ノ体面上及實質上ニ於テ得ル所実ニ大ナリト言

六、全會議ヲ通シ小官ノ痛切ニ感シタルハ各國ノ態度カ凡

テノ場合ニ於テ只自國ノ利益ヲ打算シテ決セラレタルコ
トナリ若シ此ノ會議ノ結果具体的ニ或ハ極東及太平洋ニ
永久的平和ヲ齎シタリト思フモノアラハ其ハ甚シキ盲断
ト言ハサルヘカラス米國民ノ一部ニハ本會議ニ於ケル日
本ノ態度カ予想外ニ譲歩妥協的ニシテ此成功ハ此ノ日本
ノ態度カ与ツテ力アリト觀測スル者アリ從ツテ從來日本
米國間ニ蟠マレル暗雲ハ一掃セラレ兩國ノ關係ハ将来改
善セラルヘシト雖モ之只米國力會議ノ成功ニ満足ヲ感シ
アル間ノ一時的現象ニ止マリ時日ノ経過ト共ニ其ノ本来
ノ面目ニ帰リ覇者的態度ヲ恣ニスルニ至ラン日本ノ如キ

4 11年2月12日（着）

ワシントン會議全權ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

ワシントン會議ニ對スル諸新聞ノ評価報告ノ件

會議第六四三号

華府會議終結ト共ニ諸新聞ハ何レモ其成績ヲ記述シテ論評
ヲ加ヘ居ルトコロ之ヲ総合シテ觀察スルニ今回ノ會議ニ依
リ（製艦競争ヲ防ギ國民ノ負担ヲ輕減シ戰爭ノ危險就中日
米戰爭熱ヲ一掃セルコト）米國ノ好マサル日英同盟消滅シ
新ニ四國間ニ太平洋ニ関スル協定成立シタルコト（支那ニ
於ケル門戸開放機會均等主義ヲ一層確立シタルコト）四山東
問題ノ円満解決及二十一ヶ条問題ニ關スル日本ノ譲歩ニ依
リ日支間ノ關係改善セラルベキコト等ヲ以テ重要ナル成果
ナリト認メ補助艦殊ニ潛水艦縮小問題不調ニ終リ且陸軍縮

小問題解決ノ端緒ヲ得ザリシモ要スルニ予期以上ノ好結果ヲ挙ゲ世界ノ平和ニ一新紀元ヲ画シタルモノトシテ一般ニ讀辭ヲ呈シ殊ニ今回ノ會議ニ於ケル米国ノ國際的地位著シク高マリタルコトニ対シ満足ノ意ヲ表シ「ヒューズ」ノ成功ヲ称揚スルノ声高シ將又關係諸國ニ対スル論評ヲ見ルニ概シテ日英両国ヲ以テ最成功セルモノト認メ

- (一) 英國ニ対シテハ財政困難到底米国ト製艦競争ヲナシ得ザルニ當リ同等ノ海軍力ヲ協定シタルコト日本ノ感情ヲ害セズシテ日英同盟ヲ消滅セシメタルコト米国ノ仏國ニ対スル感情ヲ冷却セシメ歐州ニ於ケル其立場ヲ有利ナラシメタルコト等ヲ挙ゲテ其得ル所大ナルモノアルヲ称揚シ「バルフォア」ノ人気「ヒューズ」ニ劣ラザル勢ナリ
- (二) 仏國ニ対シテハ太平洋条約ニ加入シ得タルコトヲ若干ノ成功ト認ムルモ潛水艦問題ニ付主張ヲ固執シ陸軍縮小問題ニ反対シテ軍國主義ヲ疑ハレ著シク米国上下ノ感情ヲ害シタルコト失敗ナリトナスマモノノ如シ
- (三) 伊國以下ノ小国ニ対シテハ格別注意スベキ論評ナシ
- (四) 支那ニ対シテハ今回世界ノ諸國ニ依リ領土保全等ノ根本主義確認セラレ日本ノ脅威除カルルト共ニ關税引上げ郵

ド百「ペーセント」ナリト前置シ防備問題ノ決定ニ依リ太平洋ニ於ケル米国ノ脅威ヲ免カレ海軍制限ニ依リ關係的勢力ヲ維持シ且國費ノ負担ヲ輕減シ山東問題ヲ解決スルト共ニ亞細亞ニ於ケル既往ノ侵略行為ニ対シ誣索ヲ受ケザルコトニ成功シ四國協定ニ依リ日英同盟ヲ捨て印度ニ關シ英國ヲ援ケザルベカラザル機會ヨリ免カレ同時ニ米国ヲ敵ニ廻スコトヲ避ケ得タルコトヲ挙ゲ日本ハ勝利者ナリト述べ更ニ七日社説ニ於テ日本カ当初國際法廷ニ於テ其罪過ヲ審問セラルベキコトヲ懸念シ居リタルカ今ヤ多數ノ友人ト大ナル希望ヲ得テ會議ヲ去ルモノナルコト衆論ノ一致スル処ナリ日本ハ譲ル可キヲ譲リ取ル可キヲ取り哀訴セス脅迫セス真面目ニ事ヲ処シタル為メ亞細亞ニ於ケル有形的所得以外ニ「モーラル・クレヂット」ヲ得タリ此ノ結果ヲ得タルハ四團ノ情勢然ラシメタルト同時ニ日本全權カ用意周到且ツ事実ニ基キ巧ニ折衝シタルカ為メナリト論評セリ紐育「タイムス」ハ六日ノ紙上ニ於テ日本ハ最モ多クヲ得タリトノ標題ノ下ニ日本今回ノ勝利ハ其外交史上類例無シ日本ハ之迄他ノ會議ニ於テ多クノ勝利ヲ得タルコトアルモ常ニ悪感ヲ貽シ失敗國ニ復讐ノ念ヲ与ヘタルカ今回ハ露西亞以外ニ對

便局撤退等幾多付帶シテ得タルモノアリ且ツ山東問題有利ニ解決シ二十一ヶ条問題ニ付テモ著シク日本ノ讓歩ヲ得タルコト等ヲ挙ゲ其ノ成功ヲ認メ居ルモ同時ニ今回ノ會議ニ於テ支那ノ渾沌タル実情暴露シ支那全權ノ執拗ナル態度往往反感ヲ招キタル為從來米国人ノ抱キタル盲目的同情幾分ノ変更ヲ來シ從テ新聞紙上往々嘲諷的批評散見スルニ至レリ輿論ノ大勢ハ支那ノ成功ヲ認ムルト共ニ今回ノ會議ニ於テ得タル結果ハ單ニ紙上ニ止マルヲ以テ現実ニ之ヲ收メ得ルヤ否ヤハ今後支那自ラノ努力如何ニ俟ツノ外ナシト云フニ帰着スルガ如シ

(五) 我國ニ対シテハ当初海軍噸數比例問題ニ關シ次ニ防備問題山東問題等ニ闊シ多少反感起リタルコトアルモ會議終了間際ニ至リ防備山東両問題解決シタル為二十一ヶ条ニ対スル讓歩的声明ト相俟ツテ輿論幸ニシテ良好ニ展開シツツアリ諸新聞ハ概シテ我國ヲ以テ英國同様ニ成功ヲ收メタルモノト認ムルモノノ如ク中ニハ我國ヲ以テ最大ノ成功者ト看做ス者少カラズ「ニューヨーク・ウォールド」ハ五日ノ紙上ニ於テ日本ハ其ノ政治的地位ニ変更ヲ來サンコトヲ恐レ用心シテ會議ニ臨ミタルニ拘ハラズ其ノ得タル結果ハ殆

シテハ更ニ然ルコト無シ會議ハ西伯利亞問題ニ就キ何等為スコトナカリシカ日本ニシテ西伯利亞ヲ捨てサルニ於テハ露国人ハ早晚必ス立テ争フヘシ日本ノ米国及支那ニ対スル關係著シク改善セラレ殊ニ日米間ニハ海軍條約及四國條約ニ依リ戰爭ノ危險一掃セラレタリ

將又亞細亞ニ於ケル日本ノ優勝ナル地位ハ何人モ認ムル所ナルヲ以テ将来支那又ハ露西亞ニ於テ日本ニ反抗セントスル場合アリトスルモ米国ハ其ノ渦中ニ投スルコトナカルヘシ要スルニ日本ハ東部亞細亞ニ於テ其ノ意ノ如ク行動シ得付カサル限り華府會議ノ成果ニ対シ終局ノ判定ヲ与フルコトヲ得サルヘシト述へ又「ワシントン・ポスト」ハ八日社説ヲ以テ日本ハ會議ニ於テ經世家の方針ヲ執リ世界ノ尊敬ヲ博セリ山東問題ノ解決ノミニテモ會議ニ顯著ナル成功ヲ齊シ日本ノ地位ヲ高メタリ尚ホ他ノ諸問題ノ解決ニ依リ日本ハ亞細亞ニ於テ鞏固ナル地位ト諸外国ノ友情ヲ收メタリ今回ノ會議ニ依リ日本程信用ト威望トヲ高メタルモノナシト論評セリ

在歐州各大使ヘ転電セリ

在歐州各大使ヘ転電セリ

5 11年3月8日 加藤全権ノ陳述

加藤全権ガ横浜着ノ節大洋丸船中ニテ新聞記者

ニナシタル陳述

吾等昨秋大命ヲ奉シ華盛頓會議參列ノ為渡米ノ途ニ就テ以來已ニ五ヶ月本日久振ニテ再ヒ記者諸君ト相会スルノ機ヲ得タノハ洵ニ欣喜ニ堪ヘナイ所デアル

今回ノ会議ハ御承知ノ通り軍備ヲ制限シ以テ世界平和ノ基礎ヲ確保スルト共ニ各国民ノ負担ヲ輕減スルコトヲ大眼目トシ同時ニ之ト関連シ極東及太平洋ノ全局ニ亘リ關係各国間ニ共通ノ諒解ヲ得ルコトヲ目的トシタ次第デアルガ三ヶ月ニ亘ル会期中各國委員ハ何レモ終始率直眞摯ナル態度ヲ以テ意見ヲ交換シ殊ニ軍備制限問題ニ付テハ平和ヲ愛好スルノ誠意ヲ披瀝シ互讓ノ精神ニ依リ小異ヲ捨て大同ヲ取り飽迄會議ノ目的ヲ達成スルコトニ協力腐心シタル為幸ニシテ相当ノ成果ヲ収ムルコトヲ得タル次第デアル

會議ノ結果又ハ會議中別箇ノ商議ニ依リ關係各國間ニ調印ノ運トナリタル條約ハ海軍制限ニ關スル五國條約、太平洋ニ關スル四國條約、山東關係日支條約及ヒ支那ニ關スル九

サルナラム我國民ノ期スル所亦タ此ニ存スルハ吾等ノ確信スル所テアル

6 11年3月10日 全權報告

ワシントン會議ニ關スル全權報告

華盛頓會議ニ關スル帝國全權報告

第一章 會議ノ組織

本委員等客年十月大命ヲ拝シ帝都ヲ辞シ同年十一月二日米國首都華盛頓ニ到着超エテ同月十二日會議開会統テ本年二月六日閉会ニ至ル迄約三ヶ月間ニ亘リ連日間断ナク開会セラレタル總會議又ハ各種委員会ニ帝國全權委員男爵幣原喜重郎氏ト共ニ悉ク參加シ列国同僚ト協調熟議以テ帝國政府訓令ノ趣旨遂行ニ微力ノ最善ヲ尽シタリ

今少シク本會議ノ構成経過及成績ニ付既報ノ諸点ヲ総合概説シテ當路ノ清鑑ニ供セムトス
抑モ本會議ハ米國ノ提唱ニ依リ軍備制限ノ協定ヲ主眼トシ之ニ關連シ極東及太平洋問題ヲ討議スルノ目的ヲ以テ開催セラレタルモノニシテ軍備制限ニ關シテハ日米英仏伊ノ五

國條約等都合七条約又會議ニ於テ同意ヲ見ルニ至リタル各種決議ハ十二ノ多キニ達シテ居ル其ノ内容ハ既ニ公表セラレタル所ニ依リ諸君御承知ノ通りナリ

會議ノ產物トシテ形ニ表ハレタルモノハ以上ノ諸條約、諸決議デアル若シ之ヲ個々ニ切り離シテ論究シ又ハ各國別々ノ見地ノミヨリ批判シタナラハ夫々不備不満足ニ感セラル點モ少クナイデアラフ乍去之ヲ綜合シ全局ヨリ考察シタナラハ其ノ各国民相互ノ了解親善ヲ進メ得タル点ニ於テ其ノ各国民ノ負担ヲ著シク輕減シ得タル点ニ於テ確ニ天下民衆ノ希望タル世界平和確立ノ方向ニ一步ヲ進メタモノデアルト言フコトハ承認スルニ難カラサル所ナラム、是レ大戰ノ苦キ經驗ニ顧ミ各國何レモ親和協調ノ要ヲ痛感シ真ニ交讓妥協ノ精神ヲ發揮シ人類共同ノ福祉増進ノ為ニハ亘ニ応分ノ犠牲ヲ払フコトヲ辞セラムトスルニ至リタル新氣運ノ然ラシメタル所ニシテ蓋シ健全ナル多數輿論ノ一大勝利ト目スベキデアラフ、而シテ斯ク勝利ノ實現ヲ可能ナラシメタル米國大統領ハ當ニ世界ノ感謝ニ值ヒスルモノテアル想フニ各国民ハ今後益々協心戮力以テ今次會議ノ着手シ成就シ得タル所ヲ更ニ大成セシムルコトニ最善ノ努力ヲ吝マ

右總會議カ即チ本會議ノ最終決定ヲ為ス形式上ノ中心機關ニシテ右總會議ノ下ニ前記ノ二大問題討議ニ關連シ各別ニ討議サルヘキ諸題目及議事方法ヲ定ムル為先ツ關係各國ノ首席全權又ハ他ノ一全權ヨリ成ル軍備制限關係問題討議方法組織委員会及極東及太平洋諸問題討議方法組織委員会ノ兩委員会ヲ設ケ其ノ審議ノ結果ニ基キ軍備制限總委員会及極東及太平洋總委員会ノ二委員会ヲ設ケ前者ハ關係五ヶ國後者ハ九ヶ國全權委員全部ヲ以テ組織シ總會議ハ之ヲ公開シ委員会ハ之ヲ秘密会ト為ス但シ委員会ノ議事ニ關シテハ其要領ヲ即日公表シ以テ成ルヘク商議進行ノ大体ヲ周知セシムルニ努メタリ

七 會議ノ終了

六四四

箇ノ小委員会（Sub Committee）及起草委員会ヲ設ク両總委員会ハ此等ノ補助機関ヲ監督シ各軍備制限又ハ極東及太平洋問題ニ關シ一切ノ問題ヲ討議決定シ小委員会ハ特ニ詳細ノ討議研究ヲ要スル問題起ル毎ニ其調査審議ヲ付托セラレ起草委員会ハ諸決議又ハ条約案等ノ起草報告ノ任ニ当ル此ノ外特別ノ問題ニ付調査報告ノ為専門家ノミヲ以テ又ハ全權及専門家ヲ交ヘテ組織スル少數ノ分科会ヲ設ケタリ殊ニ軍備制限委員会ニ於テハ主力鑑ノ比率計算戰時法規改正毒瓦斯使用航空問題、海軍條約案ノ如キ特ニ専門智識ヲ要スル問題割合ニ多ク之カ為分科会大ニ活動シタルカ大体ニ

極メテ重要ナルモノアリシヲ以テ委員会ノ種類複雜ナルノミナラス会合ノ回数亦自ラ許多ナルモノアリ甚シキハ日ニ五会合ヲ重ネ多クハ三会合ニ達シタリ試ミニ總會議及各種ノ委員会ノ会合數ヲ合算セハ実二百三十五回ノ多数ニ上リ此間又別ニ非公式会合ヲ重ネタルモノ多ク且ツ本會議ノ外ニ帝國全權委員ノ関スル限り四國協商ニ關スル數会合及山東問題ニ關スル日支ノ会合三十余回ニ達スルアリ是等ノ會合力僅々三ヶ月間ニ行ハレタルヨリ觀ルモ本會議力其事業遂行ノ為ニ如何ニ精励努力シタルカ又其議事進行ノ速度如何ニ大ナルモノアリシカラ察スルニ足ルヘシ

七 会議ノ終了

六四六

意ノ旨ヲ宣シ帝国全權委員ニ於テモ亦主義上提案ノ趣旨ニ異論ナキ旨ヲ明言スルト共ニ併テ國家ノ安全ニ関スル問題ヲ考慮セサルヘカラサルコトヲ付言シ茲ニ米国提案ヲ基礎付討議ヲ開始スルコトトナリ

米国提案ハ既ニ周知ノコトニ属スルモ本会議ノ最重要ナル問題ナルニ付其梗概ヲ述フヘシ即チ該案ノ基礎

一、関係列国ノ一切ノ主力艦建造計画ヲ放棄スルコト

二、既存ノ艦艇ニ就テモ其幾隻カラ廃棄シテ海軍力ヲ減縮スルコト

三、大体ニ於テ関係国ノ現在勢力ヲ標準トシテ海軍力ノ比率ヲ定ムルコト

四、主力艦噸数ヲ以テ海軍力計算ノ標準トナシ補助艦ニ対シテモ之ニ相当スル制限ヲ行フコト

ノ四綱領ヲ定メ之ニ依ツテ現ニ互ニ造艦競争ヲ行ヒツツアル日英米三国ノ海軍ニ關シテ作製セル具体的制限案ヲ提起セリ即チ主力艦ニ關シテ先ツ自ラ進ンテ一大減縮ノ態度ヲ示シ

米国ハ建造中ノモノ十五隻旧艦十五隻計三十隻約八十五万

噸ヲ廃棄シ英國ハ建造中ノ四隻旧艦十九隻計二十三隻約五十八万噸ヲ廃棄シ日本ハ建造未着手ノ八隻ノ計画ヲ放棄シ及建造中ノ七隻旧艦十隻計十七隻約四十五万噸ヲ廃棄スルノ案ニシテ其結果日本ハ建造未着手ノ八隻ノ計画ヲ放棄シ及建造中ノ七隻旧艦十隻計十七隻約四十五万噸ヲ廃棄スルノ案ニシテ其結果

日英米ノ維持スヘキ主力艦ハ

日、十隻約三十万噸

米、十八隻約五十万噸

英、二十二隻約六十万噸

トナルヘク此後十年間此状態ヲ其儘繼續シ十年後ニ至リ初テ艦齡二十歳ニ達スルモノニ限リ代艦ノ建造ヲ許シ而モ代艦建造ノ結果日英米ノ海軍力各々六、一〇、一〇ノ比率ニ保タムトスルニアリ

十一月十六日ヨリ日米英海軍専門家分科会ヲ設ケテ先ツ主力艦比率算定ノ基礎タル三国海軍ノ現在勢力問題ヨリ調査攻究スルコトトナリ日英米専門家ノ意見容易ニ一致セス漸ク日英米三国首席全權委員ノ非公式会合ニ依リ意見交換ノ結果互讓妥協ニ努メ帝国政府ニ於テモ軍艦「陸奥」ノ保留ト太平洋諸島防備ノ現状維持トニ關シ協定ヲ遂クルニ於テハ大体国防上差支ナシト認メ専ラ国民ノ負担輕減及世界平

和ノ基礎確立ニ協力スル見地ヨリ米国提案ノ如ク三国海軍力比率ヲ六、一〇、一〇ト為スコトニ同意シ茲ニ主力艦問

題ハ日本ハ三十一万五千噸、米五十二万五千噸、英五十二万五千噸ヲ維持スルコトトシテ三国間ニ解決ヲ見タリ斯ク

テ三国間ノ仮協定ヲ仏伊ノ全權委員ニ報スルト同時ニ該両國ノ主力艦ヲ今後十年間現状維持ト為シ十年後ニ於テ代艦建造ノ場合ニハ其ノ総噸数ヲ各十七万五千噸ニ限ルヘシト

提議シタルカ仏國強ク之ニ反対シ伊国ハ單ニ仏國ト同等比率ヲ得レハ足レリトシ本問題ニ關スル論議小委員会ニ於テ

最モ激烈ヲ極メタルモ終ニ仏伊ハ主力艦ニ關スル限り米国提案ヲ承認シ茲ニ各艦ノ噸数航空母艦ノ噸数比例ト共ニ主

力艦ニ關スル五国間ノ協定成立シタリ斯クシテ本会議ノ最も重要ナル議題ニシテ從來屢々試ミラレテ終ニ解決ニ至ラ

サリシ難問題即チ各国競争軍備制限問題ノ骨髓タル海軍主力艦制限ノ問題ハ五大国間ニ円満ニ協定セラレタルナリ

次ニ主力艦ノ制限ト共ニ重要ナル問題ハ巡洋艦其他ノ補助艦殊ニ潜水艦ノ比率制限ノ問題ナリ

米国提案ハ大体主力艦ノ比率ニ準シテ五国間ノ比率ヲ定ムルニアリシカ英國ハ潜水艦ノ全廢ヲ主張シ仏國ハ巡洋艦及

第三ニ重要ナルハ陸軍制限ノ問題ナリシカ米国全權委員ハ米国陸軍ノ關スル限り制限ノ問題ハ起ラス蓋シ其常備兵力ヲ最小限度ニ保ツハ米国伝來ノ國是ナレハナリ休戦當時ニ復員ヲ開始シ爾後一年ニシテ略々之ヲ完了シ今日ニ於テハ四百万ノ兵員ヲ保有シタルモ休戦條約調印ト同時ニ僅ニ十六万弱ノ常備兵力ヲ有スルニ過キスト述ヘ仏國全權委員ハ仏國ハ既ニ其本国常備兵力ノ三分ノ一ヲ減縮シ更ニ近ク二分ノ迄ニ之ヲ減縮セムトス是レ以上ニ減縮セムコトハ其四囲ノ情況ニ照ラシ他ニ特別ノ保障与ヘラレサル限り国防上絶対不可能ナリト主張シ伊国全權委員ハ伊國ハ既ニ其常備兵力ヲ現在ノ二十万ヨリ十七万五千ニ減スルノ案

ヲ有セリ而シテ歐州現時ノ政局ニ鑑ミ陸軍制限ノ決シテ單純ニ考慮シ得ラル問題ニ非サルコトヲ認ムルモ本会議カ陸軍制限問題ノ為ニ十分ノ考慮ヲ払ハレムコトヲ希望ストニハ衷心之ニ同感ナルモノナリ然レトモ一國陸軍軍備ハ其國ノ地理的其他ノ事情ニ依リテ決セラルヘキモノニシテ是等ノ事情ハ各國其趣ヲ異ニシ從テ陸軍ニ関シテ一般的制限ヲ考慮スルコトハ海軍ニ関スル如ク容易ナラサルモノアルヘシ何レニスルモ日本ハ純粹ナル防禦目的ノ為極東ニ於ケル其ノ地位ニ依リ必要トスル以上（不明）軍（不明）ヲ（不明）持スルノ意思（不明）ト言明シタリ

二、極東及太平洋問題

世界ノ平和人類ノ福祉増進ノ為ニ若シ列国間誤解紛争ノ原因ヲ全然除去スルコト能ハサレハ少クトモ之ヲ減少スルコト必要ナリ之カ為ニ差当リ極東及太平洋問題ヲ軍備制限問題ニ関連シ討議スルヲ適當且有益ト認メラレタルカ該極東及太平洋問題中太平洋問題ハ後ニ述フルカ如ク「ヤップ」島ニ関スル日米協定並太平洋諸島ニ関スル日米英仏ノ四国

協商ノ締結ニ依リテ処分セラレ本会議ノ討議問題トナラスシテ終リ西比利亞問題ニ付テモ亦會議シ多ク触ル所ナク單ニ總委員会ニ於テ両回ニ亘リ日米仏三国全權委員ノ声明ヲ以テ終結シタルヲ以テ結局極東及太平洋ニ関スル會議ハ殆ト支那問題ニ集中シ總委員会ノミニテモ三十二回中其且回ノ各一部ニ於テ西比利亞問題ノ討議セラレタル外全部支那問題ノ為ニ費サレタリ

若シ夫レ支那問題ニ至リテハ大体米国側議題試案ニ網羅セラレ居ルモ其性質極テ複雜範囲広汎ニ亘リ軍備制限ノ如ク主催國ニ於テ具体的成案ヲ提ケテ討議ノ基礎ト為スコト難ク從テ大体米國議題順序ニ依リ隨時参列者ノ陳述セル希望又ハ提議ニ応シテ討議スル外ナカリシナリ而シテ斯ル希望及提議ハ當然最大利害關係者タル支那全權委員ニ依リテ多ク提唱陳述セラレ從テ支那問題ノ討議ハ支那ノ希望ニ対スル列国ノ同情的考慮ヲ以テ終始セリト云フヘク就中政治上地理上經濟上關係最モ深キ日本ハ此点ニ於テ常ニ討議ノ中心タリ其ノ態度ハ列国注目ノ焦点タリシコト亦論ヲ俟タス客年十一月十六日極東問題總委員会第一回會議ニ於テ議長「ヒューズ」ハ討議開始ニ際シ特ニ日支兩國ノ地位ニ付陳

述シ日本ノ地位實力ニ對シ敬意ヲ表シ就中支那ノ門戸開放セラルレハ先ツ其戸口ニ立ツモノハ日本ナリトテ日支關係ノ密接ナルコトヲ諷シ同時ニ米国独立當時經驗シタル困難ニ鑑ミテ支那現下ノ難局ニ同情ノ意ヲ表陳シ参列各國ノ願意ナキ討論及協力ヲ尽シテ以テ各國間相互ノ了解ヲ充分ニ遂ケンコトヲ希望シタリ

茲ニ於テ支那ハ大体米國議題ノ順序ニ從ヒ其希望ヲ掲ケテ提案ト為シタルカ要ハ

一、支那ノ領土保全及獨立尊重

二、門戸開放主義ノ支那全土適用

三、支那ノ関知セサル極東平和關係條約不締結ノ約束

四、支那ニ關スル特權及約束ノ公表及其效力ノ審査

五、支那ノ政治、司法、行政ノ自由ニ對スル現存制限ノ撤廃

六、無期限ノ對支契約ノ期限確定

七、對支契約ノ解釈原則ノ制定

八、支那ノ中立尊重

九、太平洋極東ニ於ケル紛争ノ平和的處理方法ノ規定

十、極東會議ノ定期開催

二、日支間ノ親善關係增進ハ素ヨリ日本ノ痛切ニ欲求スル所ニシテ日本ハ支那ノ正当ナル向上的希望達成ニ対シ真ニ助力セムトス支那ノ何レノ部分ニ於テモ領土的發展ヲ企ツルカ如キ政策ハ日本ノ夢想タモセサル所ナリ日本ハ飽迄支那ニ於ケル門戸開放機會均等主義ニ対

七 会議ノ終了

六五〇

シ無条件無留保賛成ヲ表セムトルモノナリ
我国民産業生活上工業原料食料品ノ多クヲ支那ニ仰ク

ノ要アリト雖之力為何等特殊ノ優先的特權ヲ要請スル
コトナシ吾人ノ求ムル所ハ公正ナル自由競争ニ外ナラ
ス

支那ノ最モ希望スル所例へハ領事裁判権撤廃問題ノ如
キ吾人ハ同情ヲ以テ他列国全權ト共ニ協力シテ其達成
ニ寄与セムトス

三、吾人ノ本会議ニ列スルヤ徒ニ利己ノ為ニアラス極東
ノ平和及諸国民間ノ親交確保ノ為ニ關係列国ト協議セ
ムカ為ナリ

四、本会議ノ主タル目的ハ關係國将来ノ行動準則タルヘ
キ主義ヲ樹立スルニアリト信ス勿論上議ヲ適當ナリト
スル問題ハ何タルヲ問ハス之カ討議ニ反対スルモノニ
アラスト雖無數ノ小問題ノ煩瑣ナル論議ニ依リ徒ニ会
議ヲ遲延セシムルカ如キハ吾人ノ取ラサル所ナリ

斯クテ極東問題ノ討議ハ日本ノ態度声明ヲ以テ始マリシカ
右声明ハ海軍制限ニ關スル討議ノ劈頭日本カ英國ト共ニ態
度ヲ言明セシコトト併セテ会議ノ内外ニ好印象ヲ与ヘタル
度ヲ言明セシコトト併セテ会議ノ内外ニ好印象ヲ与ヘタル

モノノ如ク為ニ会議ノ成功ヲ助ケルニ与ツテ力ナキニアラ
サリシト確信ス
果シテ会議ハ「ルート」氏ノ発案ニ基キ氏ニ嘱シテ先ツ支
那問題ニ適用スヘキ原則ニ付一ノ決議案ヲ起草セムコトヲ
求メ茲ニ所謂「ルート」決議案ハ提出セラレタリ右決議ハ
一二字句ノ修正アリタル後一挙ニシテ滿場一致ヲ以テ可決
セラレタルカ右決議ハ支那問題ニ關スル根本原則ヲ確定セ
ルモノニシテ實ニ極東問題討議ノ基礎トナリ本会議ノ重要
ナル成果ノ一タル所謂九国條約ノ骨子トナレルモノナルヲ
以テ左ニ其内容ヲ記述スヘシ

一、支那ノ主權、独立並領土的及行政的保全ヲ尊重スル

コト

二、支那ヲシテ自ラ鞏固ナル政府ヲ發展維持セシムル為
メ自由ナル機會ヲ支那ニ供与スルコト

三、支那全土ニ亘リ各国民商工業上ノ機會均等主義ヲ確
立スル為メ各國協力スルコト

四、他ノ友邦國民ノ權利ヲ侵害スルカ如キ特權又ハ特典
ノ要求又ハ支那ノ安全ニ害アル行動ノ支援ヲ為ササル
コト

右ノ四大綱領ハ從來支那ニ関シ列国間就中日本ト英米仏

等ノ盟邦友邦トノ條約ニ於テ規定セラレタル主義原則ヲ綜
合シテ一層明白ニ将来ノ原則トシテ宣言セルモノニシテ是

レ実ニ帝國年來ノ對支政策ト全然一致スルモノ多ク尤之カ
為ニ支那ハ列國トノ既定條約關係並列國民ノ適法ニ獲得享

有セル權利ノ現状ヲ俄ニ変更スルハ極東ノ平和ノ為喜フヘ
キニアラス此ノ故ニ右原則ノ確定カ正当ナル既存ノ條約及
權利ノ影響スル所ナク專ラ将来ニ關スルモノナルコトヲ明
ニシテ全然滿腔ノ同意ヲ表シタリ

是ヨリ先キ支那全權ハ其希望十則ヲ提出シテ其討議ヲ求メ
タルカ右「ルート」案ノ決議ニ依リテ支那ニ對スル列國ノ

根本方針ハ決定シ支那ノ提案ノ大部モ亦之ニ依リ主義上解
決セラレタル次第ナリ尤支那ノ希望ハ成ルヘク之ヲ援助シ

テ達成セシムヘシトノ同情的意向ハ本会議ノ当初ヨリ列國
ノ抱懷スル所ナリシヲ以テ右原則ノ適用トシテ具体的問題
ニ付考量ノ際支那ノ希望中最モ重ヲ措ケル政治司法行政ノ
自由ニ對スル制限ノ撤廃ニ付テハ其要求ヲ具体的ニ提出セ
ムコトヲ求メタルニ支那ハ

一、領事裁判権ノ撤廃

七 会議ノ終了

二、在支外國郵便局ノ撤廃

三、在支外國無線電信局ノ撤廃

四、在支外國軍隊及警察ノ撤退

五、關稅自主權回復及海關稅率ノ增加

六、勢力範囲ノ撤廃租借地ノ還付

七、既存特權優先權並特殊條約ノ公表審査

等頗ル廣汎且複雜ナル要求ヲ提出シ會議毎ニ繕々其理由ヲ
陳述シタルカ會議ハ總委員會ニ於テ之カ討議ヲ重ネタルコ
ト約三十回猶問題毎ニ小委員會起草委員會ニ於テ調查審議
シ結局郵便局ノ撤廃、關稅增徵ノ如キ直ニ支那ノ希望ヲ容
ルルコトトシ其他ノ諸問題ニ付テハ何分是等ノ問題カ支那
ノ特殊ノ事態ヨリ發生セル特殊ノモノタルニ鑑ミ漫ニ現実
ノ事態ヲ閑却シテ之カ處理ヲ許ササルモノアリ旁々漸次支
那ノ希望ニ副フノ方針ヲ以テ此際過渡的措置ヲ攻究決議セ
リ即チ領事裁判、無線電信、外國軍隊警察官撤退ノ如キ先
ツ特別國際委員會ヲ設ケテ支那ノ実情ヲ調査シ其報告ヲ俟
テ列國之カ實行ヲ決定スルコトナリタリ

本會議ニ於ケル以上諸問題ノ討議中茲ニ特ニ一言ヲ要スル
ハ滿州ニ於ケル我租借地及其他ノ諸權利又ハ利益ニ關シテ

ナリ帝国全権委員ハ日本カ該地域ニ於テ其有スル此等重要
ノ諸権利ヲ拠棄スルノ意思ナキコトヲ明確ニ宣言シテ会議
ノ注意ヲ喚起シタルニ会議モ亦滿州ニ於ケル日本ノ立場ニ
関シ何等ノ討議ヲ試ミムトスルノ意向ヲ示ササリキ

此外支那ノ中立尊重、支那國際條約契約ノ發表、支那鉄道
ノ様式統一、特惠運貨ノ撤廢等支那ノ為ニ同情アル幾多ノ
決議成立セリト雖事微細ニ入ルヲ以テ茲ニ詳説セサルヘシ
以上概説セルカ如ク会議ハ支那ニ関シ大小広狹各般ノ複雜
ナル多數ノ問題ヲ討議シタル結果トシテ本年二月六日
一、「ルート」ノ四大綱領及門戸開放機会均等主義ノ適
用ヲ骨子トスル所謂九国条約

- 二、支那ノ開港引上ニ関スル九国条約
ヲ締結調印シ且
- 一、支那ノ涉外事件調査会設置ニ関スル決議
- 二、治外法權撤発ニ関スル決議
- 三、在支外國軍隊及警察ニ関スル決議
- 四、在支外國無線電信ニ関スル決議及宣言
- 五、支那鉄道ノ様式統一ニ関スル決議及宣言
- 六、支那裁兵ニ關スル決議

七、支那關係現存約定蒐輯ニ關スル決議
ヲ議定セリ

右ノ外極東總委員会ニ於テ支那全権委員ハ所謂「二十一箇
条」問題ヲ提出シ當會議ニ於テ之カ審査討議ヲ為サムコト
ヲ要求シタルヲ以テ日本全権委員ハ特殊國間ノ特定條約又
ハ公文ノ効力有無若クハ其變更修正ヲ當會議ノ審査決定ニ
付セムトスルカ如キ議ニハ到底同意シ難キ旨ヲ断乎トシテ
明言シ尚該問題ニ關シ從來世上ニ喧伝セラレタル誤解惑說
ヲ訂スカ為ニ進ミテ率直ニ我立場ヲ弁明スルト同時ニ事態
ノ變化ニ顧ミ日本ハ「満蒙ニ於ケル一般鐵道及租稅擔保借
款優先權ヲ對支借款團共同事業ニ提供スヘキコト」(満蒙ニ
於ケル日本ノ一般顧問優先權ヲ固執スルノ意思ナキコト)(
所謂第五項ヲ他日ノ商議ニ譲ルコトノ留保ヲ撤回スヘキコ
トヲ此機會ニ於テ自發的ニ声明シ以テ日本ノ公正妥當ナル
態度ヲ示シ且日支直接交渉ニ係ル山東問題ノ解決ヲ付言シ
テ世ノ誤解ヲ除去スルニ努メタルカ支那ハ之ニ對シ一応ノ
弁駁的陳述ヲ為シ米國ハ本問題ニ關スル日米支間往復ノ經
過ヲ述ヘ且日本ノ声明ニ満足ヲ表スルノ趣意ヲ言明シタル
外支那會權ノ要求ハ會議ノ容ル所トナラスシテ止ミタリ

次ニ西比利亞問題ニ關シテハ本委員等ハ討議ニ先んシテ我

立場ヲ率直ニ弁明スルコトニ努メ出兵ニ關スル交渉ノ経緯
及現在駐兵ノ理由特ニ「サガレン」州内數地點占領ノ理由

及真意ヲ詳細ニ説明シ殊ニ撤兵ノ決意ヲ聲言シ「日本政府
ハ露國現在ノ窮状ニ乘シ利己的計画ヲ遂行スルノ意図ヲ有
セス尤「サガレン」州内數地點ノ軍事占領ハ一時的手段ニ
過キシテ正当ナル露國政府トノ間ニ満足ナル解決ニ到達
スルヤ否ヤ自ラ終了スヘキモノナリ」ト説キ露國ノ領土保
全尊重、内政不干涉、商工業ノ機会均等主義擁護カ帝国ノ
西比利亞ニ對スル確定政策ナルコトヲ強ク主張シタリ右ニ
対シ米國モ亦日本トノ交渉文書ヲ引用シテ米國ノ立場ヲ明
ニシ同時ニ日本ノ確定政策ニ關スル日本全権委員ノ保障ヲ
欣諾セル旨ヲ宣スルト共ニ我撤兵実行ノ速ナラムコトヲ希
望シ仏國モ亦日本全権委員ノ保障ニ信頼スル旨ヲ述ヘ以テ
西比利亞問題討議ヲ終了セシメタリ

將又西比利亞問題ト関連シテ特殊ノ地位ニ在ル東支鐵道問
題ニ關シテハ數回討議ヲ重ねタルモ現事態ノ不定ナルト露
支關係ノ複雜曖昧ナル等ノ為メ各國委員間容易ニ意見ノ
致ヲ見ル能ハス遂ニ之ヲ關係各國間ノ普通外交商議ニ譲ル

七 会議ノ終了

十年間約定シ同時ニ日英同盟条約ヲ終了セシムルコトヲ規定シタルモノニシテ客年十二月十三日調印ヲ了セリ

次ニ所謂山東問題ノ懸案トシテ存続スルハ當會議ニ於ケル極東問題討議進行上ノ一大故障タルヘク憂慮セラル理由アリタルカ會議開会後幸ニシテ米国全權委員「ヒューズ」及英國全權委員「バルフォア」ノ好意的斡旋ニ依リ華盛頓ニ於テ日支両国全權委員ノ間ニ直接商議ヲ開始スルコトトナリ客年十二月一日以来極東會議ト併行シテ商議ヲ重ヌルコト前後三十六回此間幾多ノ難関曲折ヲ経テ終ニ本年二月四日日支間ニ山東還付ニ關スル條約調印ヲ了シタリ惟斐ニ斯ノ慶賀スヘキ結果ヲ挙ケ得タルニ就テハ「ヒューズ」、「バルフォア」両氏ノ尊敬スヘキ好意的援助ニ負フ所多大ナルモノアリ特ニ記シテ謝意ヲ表スルハ本員等ノ義務ナリト信ス

以上概説セル所ニ依リ本員等任務遂行ノ成果ハ略々其ノ要領ヲ尽シタリト信ス若シ夫レ關係文書記録ノ詳細、交譲折衝ノ曲折ニ亘ル機微ノ消息ニ至リテハ別ニ稿ヲ改メテ報告スル所アルヘシ

右謹テ復命ス

抑モ國際ノ關係ハ頗ル錯綜シテ各國ノ利害必シモ相容レ

マセン隨ツテ國際會議ニ於テハ時ニ討議ノ緊張ヲ示シ幾多ノ曲折アルヲ免レマセン其間列強相互ノ交譲妥協ト各國委員ノ賢慮協調トニ俟ツニ非ナレハ到底今回ノ如キ成果ヲ見ルコトノ出来ナカツタコトト考ヘマス殊ニ今回ノ會議ニ於ケル帝国ノ地位ハ最モ重大ニシテ討議ノ題目殆ト一トシテ帝国ノ利害ニ直接ノ關係ナキモノハナカツタノテアリマスカラ折衝応酬ノ間諸君ノ苦心尽瘁ハ實ニ容易ナラサルモノテアツタ推察致シマス而カモ諸君力隱忍自重終始機宜ヲ愆ラス能ク國威ノ發揚ト會議ノ成功ニ途ヲ併セ完ウセラレタルハ政府ノ頗ル満足トスル所テアリマス

先ツ第一ニ帝國ノ外交政策ハ平和協調ヲ以テ第一義トナスニ拘ラス從來往々ニシテ他國ノ誤解ヲ招キ殊ニ支那及西比利亞方面ニ於ケル帝國ノ行動ニ対シ冤角ノ非難中傷ヲ加フルモノアリ又太平洋方面ニ於ケル我國民ノ平和的發展ニ対シ憂惧猜疑ヲ招クモノアリ動モスレハ米國濱州方面ニ於テ排日ノ声ヲ聞クカ如キハ頗ル遺憾トシテ居タノテアリマスカ華府會議ノ結果帝國ノ眞意ハ世界各國民ノ諒解スル所トナリ國際間ニ於ケル我信望ヲ大ニ高メ得タルコトハ今ヤ中

六五四

三月十日

華盛頓會議參列全權委員

男爵 加藤 友三郎
公爵 德川 家達

埴原正直

7 11年3月12日 高橋總理大臣演説

全權慰勞晚餐會（首相官邸）ニ於ケル高橋總理大臣演説

加藤埴原両全權並ニ隨員諸君カ嚮ニ大命ヲ奉シテ華盛頓會議ニ参列セラレテ以來約半歲ノ久シキ間夙夜精励克ク重責ヲ完ウシテ茲ニ芽出度ク帰朝セラレタルコトハ閣僚一同ト共ニ欣賀ニ堪ヘサル所テアリマス

今回ノ會議ハ列強ノ軍備競争ヲ制止シ且國際間ノ争因ヲ除去シ以テ世界恒久平和ノ礎ヲ築キ又各国民ノ苛重ナル負担ヲ輕減セムトスル高遠ナル理想ニ基イテ開催セラレタ次第テアリマスカ今ヤ會議ノ成果ニ徴シ大体ニ於テ当初ノ目的ヲ達成セラレマシタコトハ帝國ノ為將又世界人類ノ為洵ニ同慶ノ至テアリマス

外ノ等シク認ムル所テアリマス

第二ニ太平洋方面ハ方今列強ノ勢力相接シ人類将来ノ活動舞台トシテ天下耳目ノ集中スル所テアリマス今回此方面ニ於ケル平和ヲ確保スルノ目的ヲ以テ日英米仏四國間ノ條約締結セラレ是等諸國ニ於ケル在來ノ友好關係ヲ一層緊密ナラシメ且其他ノ善隣諸國ニ對シテモ安堵ヲ与フルニ至リマシタコトハ國際協調ノ一新生面ヲ開イタモノト申スヘク全世界ノ幸慶之ニ過ケルモノナシト考ヘマス

第三ニ軍備制限問題ハ古來各國為政家ノ幾度カ試ミテ成功シナカツタ大事業テアリマスカ米國國務長官ノ卓識英斷ト各國委員ノ誠意協調トニ依ツテ爰ニ海軍制限條約成立シ軍備競争ヲ抑止シ且太平洋ノ防備ヲ制限シ以テ各國民ノ負担ト脅威トヲ著シク輕減シ得タコトハ實ニ人類ノ福音テアリマス帝國政府ハ本條約ノ速ニ実施セラレ近キ将来ニ於テ軍備制限ノ大事業ニ更ラニ一步ヲ進メ得ヘキ幸福ナル時代ノ來ラムコトヲ翹望シテ止ミマセン尚陸軍制限問題ニ至ツテハ直ニ具体的結果ヲ見ルニ至ラナカツタケレトモ在來ノ陸海戰爭法規ニ対シ人類ノ慘害ヲ除去スヘキ有効ナル新法則ヲ加ヘ更ニ近ク國際會議ヲ開催シテ新時代ノ要求ニ適應ス

ル法規ノ協定ヲ計ルコトナリマシタコトハ亦以テ看過ス
ヘカラサル文化ノ一光明テアリマス

斯ノ如ク今回ノ華盛頓會議ハ實質分量共ニ未曾有ノ成績ヲ
収メタルモノテアリマシテ之ヲ帝国ノ立場ニ顧ミルニ過去
二十年間同盟ノ關係ニ在リタル英國トノ親交ハ依然之ヲ保

持スル外米國ニ於テ一部人士ノ抱懐シタル誤解ヲ糺キ同國
トノ親交増進ニ多大ノ貢献ヲ致シタコトハ誠ニ欣快トスル
所デアリマス將又支那問題ニ就キマシテハ帝国ハ各国ト共
ニ常ニ支那ニ深甚ノ同情ヲ表シ其ノ平和的進歩ノ為ニ努力
シ諸般ノ条約及決議ノ成立ヲ見マシタコトハ誠ニ欣快ニ堪

ヘサル所テアリマスケレトモ同時ニ支那ノ現状ヲ見ルニ政
局益々紛糾セムトスルノ状況テアリマスノハ遺憾至極ト申
サネハナラム而カモ帝国ハ此ノ間ニ處シ既定ノ方針ニ従ヒ
此ノ混亂セル支那内政ニ關シテハ如何ナル党派又ハ個人ニ
対シテモ何等ノ交渉ヲ有スルコトナク華府會議ノ精神ヲ尊
重シ支那國民ノ覺醒向上シ其ノ利福ヲ進ムルコトヲ誠意援
助セムコトヲ欲スル次第テアリマス又山東問題ハ日支間多
年ノ懸案ニシテ之力為兩國民ノ感情ヲ緊張セシメタコト度
度ニ及ンタノテアリマシタカ今回華盛頓ニ於テ日支両国全

本員等擧ニ大命ヲ挙シテ華盛頓ニ使シ會議終了シテ帰朝シ
タル處今夕特ニ盛宴ヲ張リ本員等ノ勞ヲ犒ハレタルハ一同
ノ深ク光榮トスル所ナリ
本員等ハ命セラレタル任務ノ極メテ重大ナルヲ自覚シ篤ト
政府訓令ノ趣旨ヲ体シ之カ遂行ニ微力ノ最善ヲ尽シタルモ
不幸ニシテ菲才克ク政府及國民ノ期待ニ副フ能ハサリシ所
少カラサルモノアルヲ思ヒ深ク憂慮シ居レリ然ルニ只今總
理大臣閣下ヨリ懇篤ナル御挨拶ヲ辱ウシ實ニ恐縮ニ堪ヘス
一同ニ代リテ厚ク御礼申上クル次第ナリ
華盛頓會議ノ経過及成績ニ就テハ既ニ詳細公表セラレ居リ
今更事新シク報告スル迄モナク諸君ノ夙ニ御承知ノコトニ
屬ス從テ本夕ハ主トシテ會議ニ直接參列シタル本員等ノ親
シク目擊シ特ニ深ク感シタル点ニ付テノミ聊カ清聴ヲ煩ハ
サムトス

第一本員等帝都ヲ辞シタルハ客年十月ニシテ同年十一月二
日米国首都ニ到着越エテ同月十二日會議開会統テ本年二月
六日閉会其間約三箇月間ニ亘リ連日間断ナク總會議總委員
会小委員会起草委員会分科会等日々会合ヲ重ね其ノ会合數
ヲ合算セハ実ニ三百三十五回ノ多數ニ上リ甚シキハ日ニ五会

七 会議ノ終了

ノ交渉ニ依リ其ノ解決ヲ圖ルニ際シ帝国政府ハ専ラ大局
ノ見地ヨリ難キヲ忍シテ其ノ交渉ヲ進メ遂ニ協定ヲ告クル
ニ至リマシタコトハ独リ日支国交改善ノ為メ慶スヘキノミ
ナラス和衷協調ヲ本旨トスル列強國際關係ノ新機運ニ副フ
モノト信シマス

要之華府會議ノ成果タルヤ國際政局ニ一新紀元ヲ画シ列強
ノ外交政策ニ一生面ヲ啓キタルモノト申スヘク政府ハ會議
ニ於テ議定セラレタル條約並決議ハ之ヲ誠実嚴格ニ實行セ
ムコトヲ期シ以テ一意會議ノ成果ヲ尊重セムト欲スルモノ
テアリマス

終ニ臨ミ重ネテ全權諸君ノ賢慮尽瘁ニ對シテ衷心ノ謝意ヲ
表スルト共ニ隨員諸君カ日夕拮据勉勵シテ能ク全權ヲ補佐
シタル労苦ヲ多トスル次第テアリマス茲ニ盃ヲ舉ケテ各全
權並隨員諸君ノ健康ヲ祝シマス

(註) 本演説ハ十二日午後八時公表、十三日ノ朝刊ニ掲載

8 11年3月12日 加藤男爵演説
首相晚餐會ニ於ケル加藤男爵演説
總理大臣閣下並諸君

合ヲ重ネ又三会合ヲ為シタルコト屢々アリ此ノ間又別ニ重
要ナル非公式会合ヲ重ネタリ斯クシテ終ニ軍備制限及極東
太平洋問題等國際關係上重大複雜ナル幾多ノ問題ヲ議了シ
同時ニ本會議外ニ於テ之ト関連シテ特殊ノ問題ニ付關係國
間ニ商議ヲ重ネ是亦円満ナル解決ヲ遂ケタリ以上ノ結果ト
シテ海軍軍備制限ニ關シテ二條約一決議極東問題ニ關シテ
二條約七決議太平洋ニ關シテ二條約山東問題ニ關シテ一条
約一議定其他合計七條約十二決議ヲ訂立シタリ斯クノ如ク
短日月ノ間ニ斯クモ多數ノ條約ヲ締結シ決議ヲ作製シ世界
ノ平和ニ大ナル貢獻ヲ為スノ結果ヲ齊シタルハ恐ラク國際
會議トシテハ稀有ノ例タリト信ス是レ我々カ全局ヨリ見テ
本會議ハ成功トシテ世界ノ文明國民ト共ニ慶賀セムトスル
所ナリ

第二ニ本會議ノ組織構成ニ就テ著シキ特色アルコトヲ看取
シタリ即チ本會議ハ軍備制限ノ協定ヲ主眼トシ之ト同時ニ
極東及太平洋問題ノ討議ヲ目的トシタルカ二者関連スルノ
見地ヨリ両者ヲ併セテ同一ノ總會議ヲ組織スルコトトシ軍
備制限會議關係五箇國日、英、米、仏、伊及右五箇國ノ外
ニ白耳義、支那、和蘭、葡萄牙ヲ加ヘテ九箇國代表者同時

ニ列席シ且此總會議ヲ以テ本會議ノ最終決定ヲ為ス中心機
関トシ之ヲ公開セリ右總會議ノ下ニ前記ノ二大問題討議ノ
為軍備制限總委員会及極東及太平洋問題總委員会ノ二委員
会ヲ設ケ其ノ下ニ各種ノ小委員会ヲ置ケリ此等委員会ハ秘
密会ト為セシモ委員会ノ議事ニ關シテハ其ノ要領ヲ即日公
表シ重要問題ニ關スル討議ハ多少各国ノ機微ニ触ル所ア
ルモ可成リ詳細ニ之ヲ公表セリ斯クノ如ク出来得ル限り商
議ノ公開ニ努メタルコトモ亦本會議ノ一特色タリ加之議題
討議方法ノ如キ組織形式ニ關スル委員会ヲモ特ニ各国首席
全權ヲ以テ組織シ各種特別問題ノ討議ノ為ニ小委員会、條
約及決議案ノ起草委員会等ノ各種委員会モ大体悉ク責任ア
ル全權委員ヲ以テ構成セシコトハ又本會議組織上ノ一新例
ニシテ之カ為ニ議事ノ進行敏活ナルヲ得タルコトハ看過ス
ヘカラサル事實タリ

第三ニ各会合ニ於ケル各国全權ノ態度カ頗ル率直真摯ニシ
テ各腹蔵ナク其ノ所見ヲ披瀝シタリ從テ時ニ激論ニ亘ルコ
トアリシモ會議ノ目的ヲ達成セムトスル熱心ハ其ノ背後ニ
控フル各國政府及國民ノ均シク懷抱シ居タル處ニシテ為ニ
世界ノ一部ヨリハ到底不可能ト目セラレタルサシモノ難問

クモ親シク折衝ノ局ニ當リタル予ハ斯様ナルコト決シテコ
レナカリシヲ断言シ得ルモノナリ

第四、極東就中支那問題ノ討議ニ就テノ感想ヲ一言スヘシ
支那問題ニ至リテハ大休會議前ニ各國ノ同意ヲ得タル米
國側議題試案ニ網羅セラレ居ルモ其ノ性質極メテ複雜ニ
シテ範囲モ亦広汎ニ亘リ軍備制限問題ノ如ク主催國ニ於

テ具体的成案ヲ提ケテ討議ノ基礎ト為スコト難ク從テ參
列者就中最大利害關係者タル支那全權力隨時陳述セル希
望又ハ提議ニ応シテ討議スルノ外ナカリシナリ而シテ會
議一般ノ風潮ハ始メヨリ支那現下ノ難局ニ同情シ其ノ正
当ナル希望ニ対シ各國皆同情的考慮ヲ加ヘテ其ノ達成ヲ
輔ケ且各全權相互間ニモ隔意ナキ討議及協力ヲ尽シテ以
テ各國間ノ了解ヲ十分ニ遂ケムトスルニ在リタリ此ノ間

政治上地理上經濟上關係最モ深キ日本ノ態度ハ常ニ列國
注目ノ焦点トナリ日本全權ノ陳述ハ常ニ討議ノ中心タリ
シコト亦自然ノ勢ナリ此ノ如キ帝國ノ特殊地位ニ鑑ミ支
那問題一般討議ニ入ルヤ本員等ハ政府ノ訓令ノ趣旨ニ依
リ劈頭帝國ノ本會議ニ対スル態度ヲ聲言シ且機會アル每
ニ簡明直截ニ我公正ナル對支政策ヲ宣明シタリ此等ハ當

題海軍制限ノ如キモ終ニ互讓妥協ノ精神ヲ發揮シテ人類共
同ノ福祉増進ノ為ニ各國互ニ隨分ノ犠牲ヲ甘ンスルノ崇高
ナル動機ニ因リテ円満ニ解決シタリ此ノ如キハ実ニ世界ノ
列強力從來ノ國際談判ニ往々見ルカ如キ排他利己ノ術策ヲ
離レ誠意以テ人類共通ノ目的ノ為國際協調ノ新天地ノ開拓
ニ寄与セムトスル意氣ト風潮トハ本會議ニ於テ著シク感知
スルヲ得タリ米國全權力會議ノ劈頭即チ十一月十二日第一
回總會議開会ト同時ニ海軍制限ニ關シ實行ヲ目的トスル極
メテ大胆ナル具体的提案ヲ掲ケ公開ノ會議ニ於テ堂々其ノ
所信ヲ披瀝シ自ラ先ニシテ犠牲ヲ払フノ態度ヲ示シ以テ近
世文明國民共通ノ一大負擔ヲ一舉ニシテ輕減セムトスル意
氣ハ從來ノ會議ト行方ヲ異ニセル本會議ノ特色ヲ示ス著例
ニシテ日本及英國カ互ニ之ニ呼應シテ逸早ク主義上同意ノ
旨ヲ宣シテ其ノ詳細ノ調査攻究ニ移リ屢々激論ヲ重ネタル
モ同時ニ世界ノ三大海軍國タル日英米三国全權何レモ大局
ニ顧念シ極メテ真摯ニ意見ノ交換ヲ行ヒタル結果三国ノ海
軍主力艦ノ比率ノ協定ヲ遂ケ然ル後之ヲ仏、伊両國ニ示シ
終ニ五國條約ノ基礎ヲ作り得タル次第ナリ世間動モスレハ
日本ハ英米ノ圧迫ヲ受ケタリトノ偏見ヲ抱クモノアリト聞

時直ニ發表セラレ諸君ノ夙ニ御承知ノコトナルカ日本カ
支那ノ統一和平ヲ翹望スルノ衷情ト内政不干涉及門戸開
放ノ主義恪守ノ誠意ト支那國民ノ向上的希望達成ニ対ス
ル協助ノ熱心トハ相當列國間ニ了解セラレ我對支政策ニ
關スル從來ノ誤解中傷ノ原因ハ鮮カニ艾除セラレタリト
信ス

支那問題討議ノ結果ハ第一ニ所謂「ルート」決議案即支
那問題ニ關スル原則四大綱領ノ決定ニシテ右ハ從來支那
ニ關シ列國中就中日本ト英米仏等トノ條約又ハ協商ニ於
テ規定セラレタル主義原則ヲ總合シテ一層明白ニ将来ノ
原則トシテ宣言セルモノナリ

第二ニ支那全權ノ提出セル希望ニ対スル決議ニシテ就中
支那ノ政治司法行政ノ自由ニ對スル條約上其ノ他ノ制限
撤廃ノ希望約七項ハ極東太平洋委員會討議ノ大部ヲ占メ
タルカ調查審議ノ結果郵便局ノ撤廃、關稅ノ增徵ノ如キ
直ニ支那ノ希望ヲ容ルルコトトシ其ノ他ノ諸問題ニ就テ
ハ何分此等ノ問題カ支那ノ特殊ノ事態ヨリ發生セル特殊
ノモノタルニ鑑ミ漫ニ現実ノ事態ヲ閑却シテ之カ處理ヲ
許ササルモノアリ旁々漸次支那ノ希望ニ副フノ方針ヲ以

七 会議ノ終了

六六〇

テ此ノ際ハ過渡的措置ヲ攻究決議セリ即特別國際委員會ヲ設ケテ支那ノ実情ヲ調査シ其ノ報告ヲ俟チテ列國之力実行ヲ決定スルコトトナリタリ

此ノ外西比利亜問題太平洋ニ關スル四國協商山東問題等多々商議決定セラレタルカ其ノ經緯及成果ハ既ニ諸君御承知ノコトニ付述ヘス

終ニ際シテ一言本會議ノ全局ニ亘リテ感想ヲ述ヘント欲ス

華府會議ノ成果ニ關シテハ人ニ由リ其ノ觀ル所ヲ異ニスヘシト雖モ會議ノ主要目的タリシ軍備競争ノ抑制ト國際争因ノ除去トニ於テ相当ノ事績ヲ挙ケ得タルコトハ多ク異論ナカルヘシト思ハル而シテ會議ノ衝ニ當リタル本全權等ノ感想ニ拠レハ會議力能クスル結果ヲ齎ラシ得タル所以ノモノハ實ニ參列諸國カ一致シテ世界平和ノ確立並

人類負担ノ輕減ノ急務タルコトヲ自覺シ而カモ此ノ二大目的ハ列強力排他的競爭ノ旧世界ヨリ脱却シテ國際協調ノ新天地ヲ開拓スルコトニ依リ始メテ之ヲ達成シ得ヘキモノナルコトヲ認識シタルニ由ラスンハアラス各国ハ此ノ共通ノ目的ヲ實現センカ為ニハ互ニ多大ノ犠牲讓歩ヲ

敢テシタルカ而カモ是レ皆各國ノ自發的ニ為シタル所ニシテ決シテ他ノ強制ニ出テタルモノニ非ス此ノ自制協調ノ精神アリテコソスル短時日ノ間ニ能ク前述ノ如ク幾多重大ナル條約及決議ヲ成立セシメ得タルモノナルヘキバ本全權等ノ信シテ疑ハサル所ナリ若シ世界ノ各国民力充分華府會議ノ経験ト成果トヲ会得シ國際協調ノ新機運ヲ益助長スルコトニ努力ヲ惜マサルニ於テハ世界平和ノ前途ニハ多クノ光明ヲ認ムルコトヲ得ヘシ我國民ニ於テモ此ノ華府會議ノ真義ト國際政局ノ趨勢トヲ真實諒得スルニ至ランコトハ本全權等ノ衷心希望シテ已マサル所ナリ終ニ臨ミ本會議ノ提倡者タリ司宰者タル米國大統領及米國政府當局ニ對シ深甚ノ敬意ト謝意ヲ表セムトス以上所感ノ一般ヲ略陳シ重ネテ今夕ノ御厚意ヲ深謝ス

9 11年3月13日 ワシントン會議上奏文

華盛頓會議上奏文

友三郎
喜重郎
臣 等

ハ右五國ノ外ニ白耳義、支那、和蘭、葡萄牙ノ四國之ニ参加シ九箇國ノ間ニ協議スルコトトナレリ然リト雖ニ二者互ニ

月初旬華盛頓ニ着ス當時臣喜重郎全權委員トシテ已ニ任ニ同地ニ在リ十一月下旬臣正直更ニ全權委員ノ大任ヲ拝ス而シテ同月十二日米國大統領ノ式辭ヲ以テ會議開会セラレテヨリ本年二月六日閉会ヲ告クルニ至ル迄約三閱月其ノ間或ハ總會議ニ或ハ各種委員会ニ会同討議殆ト連日ニ亘テ間断ナク会合ヲ重ヌル前後通シテ実ニ百三十有五回ニ達セリ此ノ間臣等帝国ヲ代表シテ一切ノ会合ニ参加シ以テ廣汎且複雜ナル幾多ノ問題ヲ議了シ國際政局上重要ナル數箇ノ條約ヲ締結シ各種ノ決議ヲ訂立セリ今少シク本會議ノ構成経過並成果ニ付概述シテ上聞ニ達セムトス

抑本會議ハ米國ノ提唱ニ依リ列強ノ間ニ軍備制限ノ協定ヲ遂ケ以テ戰爭ノ慘禍ト國民ノ經濟的負担ヲ輕減スルコトヲ主眼トシ同時ニ刻下ノ重要問題タル極東及太平洋問題ニ關シ關係列國間ニ於ケル一般共通ノ了解ヲ樹立セムカ為開催セラレタルモノニシテ軍備制限ニ關シテハ日、米、英、仏、伊ノ五大國間ニ於テ商議シ極東及太平洋問題ニ關シテ

敢テシタルカ而カモ是レ皆各國ノ自發的ニ為シタル所ニシテ決シテ他ノ強制ニ出テタルモノニ非ス此ノ自制協調ノ精神アリテコソスル短時日ノ間ニ能ク前述ノ如ク幾多重大ナル條約及決議ヲ成立セシメ得タルモノナルヘキバ本全權等ノ信シテ疑ハサル所ナリ若シ世界ノ各国民力充分華府會議ノ経験ト成果トヲ会得シ國際協調ノ新機運ヲ益助長スルコトニ努力ヲ惜マサルニ於テハ世界平和ノ前途ニハ多クノ光明ヲ認ムルコトヲ得ヘシ我國民ニ於テモ此ノ華府會議ノ真義ト國際政局ノ趨勢トヲ真實諒得スルニ至ランコトハ本全權等ノ衷心希望シテ已マサル所ナリ終ニ臨ミ本會議ノ提倡者タリ司宰者タル米國大統領及米國政府當局ニ對シ深甚ノ敬意ト謝意ヲ表セムトス以上所感ノ一般ヲ略陳シ重ネテ今夕ノ御厚意ヲ深謝ス

ニ在ルニ鑑ミ会議ノ劈頭即十一月十二日第一回総会議ニ於テ米国全権委員ハ海軍制限ニ関シ直ニ実行ヲ目的トスル極メテ大胆ナル具体案ヲ提示シ

(一) 関係列国ノ主力艦建造計画拋棄

(二) 既存ノ艦艇ノ一部廃棄

(三) 関係列国現有ノ海軍力ヲ標準トシ主力艦噸数ヲ基礎

トセル列国海軍力比率ノ決定

ノ詳密ナル計画ヲ公開ノ会議ニ於テ披瀝シ以テ列国委員ニ諮ルト同時ニ世界ノ輿論ニ想ヘタリ仍テ臣等ハ偏ニ聖旨ヲ奉体シ政府ノ訓令ニ遵拠シ進ムテ米国政府ノ提案ニ対シ主義上真摯ナル贊意ヲ表スルト共ニ国家トシテ其ノ安全ヲ保障スルニ緊要ナル軍備如何ノ問題ヲモ顧慮セサルヘカラサルコトヲ付言シ英國全権委員モ亦米国提案ニ同意ノ旨ヲ宣シ恁クシテ軍備制限ニ関スル問題ハ該案ヲ基礎トシテ討議スルコトナレリ爾來本問題ニ関シ慎重攻究議ヲ尽スコト実ニ六十九回其ノ間臣等ハ帝國国防ノ根底ニ支障ヲ來サアル限りニ大局ノ利害ニ鑑ミ列国協調ノ精神ニ依リ互讓妥協ニ努メ以テ世界恒久ノ平和、人類永遠ノ幸福ヲ目的トル軍備制限実行案ノ解決ヲ庶幾セリ而シテ討議ハ不幸ニシ

テ巡洋艦其ノ他ノ補助艦殊ニ潛水艦ノ比率制限ニ關シ英仏両国ノ主張相反撥シ為ニ何等ノ協定ニ達スルコトヲ得サリシト雖討議ノ主眼タル主力艦ノ比率及制限ノ問題ニ關シテハ帝國軍艦「陸奥」ノ保留ト太平洋諸島防備ノ現状維持ノ協定ト併セテ先ツ日英米三大海軍国間ニ協定成立シ次デ仏伊両国ノ比率ニ關スル協定亦成リ二月六日前記五大国間ニ海軍制限條約、潛水艦及有毒瓦斯使用ニ關スル条約並戦争法規改訂委員会ニ關スル決議ヲ訂立セリ

陸軍制限問題ニ關シテハ臣等ハ國家ノ安全及秩序ノ維持ニ必要ナル限度ニ止メ以テ国民ノ負担ヲ輕減セムコトハ帝国ノ切実ニ希望スル所ナリト雖一国ノ陸軍軍備ハ地理的其ノ他ノ事情ヲ酌量シテ裁定セラルヘク而モ是等ノ事情ハ各国自ラ情形ヲ異ニシ從テ陸軍ニ關シテ一般的制限ヲ考慮スルコト海軍ニ關スル如ク容易ナラサルモノアルヘシ素ヨリ日本ハ純然タル防禦目的ノ為極東ニ於ケル其ノ地位ニ因リ必要トル限度以上ニ何等軍備ヲ拡充スルノ意図ナシト言明シ以テ帝國ノ誠意ヲ宣示シタリシカ仏國全権委員ハ其ノ四国ノ情形ニ顧念シ何等特殊ノ保障ヲ受ケルニ非スムハ其ノ国防上断シテ既ニ著シク縮少セラレタル其ノ兵力ヲ更ニ減

縮スル能ハサル所以ヲ力説シ伊国全権委員ハ本会議ニ於テ陸軍制限問題ノ討議セラレムコトヲ希望シ各國委員間容易ニ意見ノ一致ヲ見ル能ハス竟ニ不幸ニシテ何等的確ナル協定ニ達スルコトヲ得シテ問題ノ討議ヲ他日ニ貽スノ不得已ニ至レリ極東及太平洋問題ハ又本会議ノ重要議題ニ属シ軍備制限問題ト殆ト相併行シテ討議セラレタリシカ主催者ノ趣旨ハ軍備制限會議ニ関連シ極東及太平洋ノ平和維持ノ為一般共通ノ原則ヲ確立セムトスルニ在リ是レ素ヨリ帝國カ全幅ノ賛同ヲ表スル所ニシテ特ニ極東及太平洋ノ平和維持ニ関シ本会議ノ好機ヲ逸セス關係列強トノ間ニ率直ナル意見交換ヲ行ヒ真摯ナル諒解ヲ遂ケ以テ根本原則ノ協定ニ到達セムコトハ東亞ノ平和確保ノ為最善ノ努力ヲ傾注シ来レル帝国多年ノ政策ニ全然合致スルモノナリ

臣等本会議ニ臨ムニ當テヤ帝國ノ此ノ根本方針ヲ体シテ臨機施措シ公正ナル帝國ノ態度ヲ闡明シ他面極東及太平洋ニ於ケル帝國ノ牢固ナル地位ヲ保持スルニ微力ノ最善ヲ致シタリ然リ而シテ極東及太平洋問題ハ「ヤツブ」島ニ関スル日米協定並太平洋諸島ニ關スル四国協商ノ成立ニ依リテ最早討議ノ必要ナキニ至リ西比利亜問題ニ付

支那ニ関スル列國ノ政策四大原則ヲ以テ最重要ナル決議ト為ス即チ(一)支那ノ主権、独立並領土行政ノ保全尊重(二)鞏固ナル支那政府ノ確立(三)商工業ニ対スル機會均等主義ノ支那全土適用(四)他國民ノ権利ニ害アル特権ノ要求及他國ノ安全ヲ阻害スル行動ノ抑止ヲ宣明セル四大綱領ハ實ニ支那ニ関スル關係列國共通ノ政策ヲ的確ナラシムモノニシテ是レ実ニ帝國ノ伝統的政策ト全然其ノ軌ヲ一二セリ而シテ右四大綱領ヲ眼目トシ爾余ノ重ナル決議數項ヲ総合シテ九国條約成リ關稅率引上ノ問題ニ關スル決議ハ獨立シテ別箇ノ一
条約ト成レリ

按スルニ支那ニ關スル問題ハ皆帝國ノ利害ニ至重大ナル關係ヲ有セサルハ無シ從テ臣等問題ノ討議ニ際シテ支那ノ公正ナル要求及希望ニ對シテハ常ニ同情ヲ以テ其ノ達成ヲ輔クルニ躊躇セサルト同時ニ帝國ノ重大ナル利益ニ不当ノ損害ヲ及ホサラムコトヲ期シ特ニ帝國ノ国防及國民ノ經濟的生存ノ安全ニ緊切ナル關係アル満州ニ於ケル我租借地其ノ他我カ特殊権利及利益ノ維持ニ關シ率直ニ帝國ノ意図ヲ宣明シ會議ノ注意ヲ喚起シ會議モ亦日本ノ立場ニ關シ何等論議ヲ試ミムトスル意向ヲ示ササリキ要スルニ支那問題ニ

ル旨ヲ述ヘ以テ討議ヲ了レリ

以上華盛頓會議ノ経過ヲ説キ其ノ直接ノ成果ヲ述ヘ終リタルカ更ニ又帝國政府ノ訓令ニ依リ本會議中會議ト独立シテ別ニ臣等カ英、米、仏三国全權委員及支那全權委員トノ間ニ外交上重大ナルニ商議ヲ行ヒ本會議ノ成果ト相關連スル重要ナルニ條約ヲ締結シタルコトニ付茲ニ併セテ聖鑑ヲ仰カムトス

所謂二商議トハ會議ノ初期ニ於テ日、英、米、仏四国全權委員ノ間ニ行ハレタル太平洋ノ平和保障ニ關スル四国條約ノ締結ト會議ノ中頃ヨリ日支両國全權委員間ニ開始セラレタル山東善後措置ニ關スル條約締結ノ交渉ヲ云フ
所謂四国條約ハ太平洋上ニ所屬島嶼ヲ領有スル日、英、米、仏四国カ互ニ其ノ領土権ヲ尊重スルコト太平洋問題ニ起因シ且右権利ニ關シテ締約國間ニ紛争起ル場合ニ之カ調整方法ヲ考量スル為四国共同合議スルコト、右権利カ第三国ニ脅威セラルル場合ニハ四国ハ共同又ハ各別ニ執ラルヘキ之カ應急措置ニ付協議スルコトヲ今後十年間約定シ同時ニ日英同盟条約ヲ終了セシムルコトヲ規定シタルモノニシテ客年十二月十三日調印ヲ了セリ

次ニ所謂山東問題ノ懸案トシテ存続スルハ當會議ニ於ケル極東問題討議進行上ノ一大故障タルヘク憂慮セラルル理由アリタルカ會議開会後幸ニシテ米國全權委員ヒューズ及英國全權委員バルフォアノ好意的斡旋ニ依リ華盛頓ニ於テ日支両國全權委員ノ間ニ直接商議ヲ開始スルコトナリ客年十二月一日以來極東會議ト駢行シテ商議ヲ重ヌルコト前後三十六回此間幾多ノ難關曲折ヲ経テ終ニ本年二月四日日支間ニ山東還付ニ關スル條約調印ヲ了シタリ
以上會議ノ経過及成績ノ概梗ヲ上聞スルニ当リ伏テ惟ルニ這次ノ大會議全局ノ経過ヲ回顧スレハ帝國カ英米ト共ニ世界三大強國ノ一員トシテ海軍軍備制限実行ノ大事業遂行ニ尽瘁シ終ニ世界ノ平和人類ノ幸福ニ大ナル貢献ヲ為スノ結果ヲ齎シ帝國ニ對スル世界ノ信賴ヲ加へ其ノ國際的地位益鞏固トナリ更ニ英、米、仏ト共ニ太平洋ノ平和維持ニ關スル協商ヲ訂立シ極東殊ニ支那ニ關スル列國協調ノ原則ノ確立ニ付帝國ノ發言頗ル重キヲ為シ東亞太平洋ニ於ケル帝國ノ確乎タル地位ト隆昌ナル國運ノ益々發揚セルヲ見ル是レ偏ニ上ハ 陛下ノ稟威ト鴻謨ニ賴リ下國民ノ堅忍ト努力トニ基クモノニシテ實ニ帝國ノ國際政局ニ於ケル地位ニ

新紀元ヲ画スルモノタリ
右謹テ復命ス

大正十一年三月十三日

10 11年4月5日(着) 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ワシントン条約調印後ニ於ケル日本ノ国防政
策ニ対スルタイムス紙論評ノ件

第二二三号

四日ノ「タイムス」ハ東京通信トシテ日本ガ華府ニ於テ海軍制限及太平洋ニ関スル條約調印後国防問題ニ付屢々陸海軍參謀部代表者ノ会合ヲ見タルガ遂ニ三月二十五日ノ元帥會議ニ於テ從来ノ国防政策ヲ変更セリ即華府條約ノ結果一方太平洋ノ防禦線局限サレ他方日英同盟終了シ将来日本ハ単独ニ國際ノ危機ニ當ル事トナリタルヲ以テ近接地方トノ關係ヲ密ニシ各種ノ供給ヲ確保シテ一朝事アル場合持久戦ニ備フル事トナレル旨ヲ報ジ更ニ社説トシテ右決定ハ華府

条約ノ精神目的ニ反ス固ヨリ各国ハ其防禦ニ關シ自由ニ決定シ得ベシ然トモ太平洋ニ於テ日本ト戰フ事有リ得ベキ國ハ今次華府ニ於テ条約ヲ締結セル諸國ニ外ナラズ而シテ吾人ガ不安ヲ感ズルハ日本ガ近接地方ヨリノ供給ヲ確保セントスル点ニ在リ蓋日本ハ華府ニ於テ受ケタル制限ノ埋合セヲ為ス為メ支那ト經濟關係ヲ密ニシ支那ノ資源ヲ利用セントルモノノ如シ華府條約ハ支那ヲ現時ノ難局ヨリ救ヒ各國ニ機會均等ヲ確保シ爭議アル場合ニハ關係國ノ友好的協議ニヨリ解決セん事ヲ期ス日本ガ更ニ支那ニ圧迫ヲ加ヘントスルハ華府條約ノ精神ヲ没却スルモノナリ且日英同盟終了ノ結果日本ハ単独ニ國際ノ危機ニ當ル事トナレリト為スハ誤ニシテ國際ノ危機ハ利害關係國ノ友好的協議ニ依リ解決スル事トナレルノミ吾人ハ前記日本ノ決定ヲ重大視ス更ニ詳細説明ヲ聞カン事ヲ望ム云々ト論ジ居レリ

日本外交文書 ワシントン會議 下 終

ワシントン會議 上下巻 日付索引

(大正10年1月——大正11年4月)

番号	文書	電信 番号	発・受信者	件	名	卷 頁
一 一	1月27日(着)	四二 在米國幣原大臣 内田外務大臣宛	(ヨリ (電報)	ボラ一案米上院ヲ修正ノ上通過並ビニ此ノ種 ノ案現政府下デノ成立見込薄ノ旨報告ノ件	上一	
付記一	在米國幣原大臣宛	ボラ一 第六二四号 米国上院議員提出ノ両院決議案ニ関スル件	(電報)	十二月十七日着電	上一一	
二	在米國幣原大臣 同ボラ一提出ノ決議案	ボラ一 第六二五号 米国外交委員會通過	(電報)	十二月十七日着電	上一一	
三	在米國大使館付永野海軍武官 月二十三日着電報第一六五号 ボラ一案米国外交委員會通過	ボラ一 太平兩洋艦隊合流ニ関スル件	(電報)	ヤップ島处分究明並ビニ大西	上一三	